



る主屋は、1階に和室、2階は和室と洋室、3階は和室の大広間となっている。この大広間は、全国的に有名な大曲の花火よりも古いとされる、皆瀬川から打ち上がる増田の花火大会を眺めるために設けられたとか(図11)。

主屋の奥に、2階建ての内蔵がある。1階の手前の部屋は板張りで、柱を短いスパンで建ててあり、意匠と構造がバランスよく、漆喰を壊して侵入されることを防いでいる(図12)。奥は座敷。2階に上がると、巨大な小屋組みを眺めることができた(図13)。

黒板塀と深い木立が成す風景

増田から北上して、乳頭温泉郷に向かう途中、角館(かくのだて)に寄る。

角館は、江戸時代初期に町割りされた武家町であり、昭和51年(1976年)に

重伝建地区に指定されてから、修理・修景事業がはじまった。現在の武家屋敷通りには、広い通り沿いに黒板塀が連続して、シダレザクラやモミの大木が深い木立を形成しており、武家屋敷とともに独特の風景を創り出している(図14)。



鶴の湯温泉は銀世界

角館を過ぎると雪が舞いだして、田沢湖の手前あたりからはひどくなってきた。田沢湖で夕焼けを見るところではなくなった。

辺りはどんどん真っ白になっていく。雪道ドライブは久しぶりであり、山奥の乳頭温泉郷へ急ぐことにした。視界が

悪く前を行く車はどんどん少くなり、「ちょっと車を停めて写真を…」という遊び心も失せ、ついに単独走行状態となった。

細い山道をえちらおっちら30分ほど走って、乳頭温泉郷、鶴の湯温泉になんとか到着。一面はまさに銀世界(図15)。その中に、暖かな光を目にするとなぜかホッとする。



15 鶴の湯温泉到着!



16



16 本陣



17 巨大すぎる記念スタンプ



18 除雪のありがたさ



19 御座石神社と田沢湖



鶴の湯温泉の本陣と呼ばれる建物は、秋田藩主佐竹公が湯治で訪れた際に家来が控えていた長屋。茅葺屋根、囲炉裏、山の芋鍋など、昔ながらの風情を感じることができる(図16)。おまけにツララが雪国情緒を醸し出してくれ、今朝、千秋公園で眺めた満開のサクラとのギャップがすごい。

朝は、鳥の鳴き声で空が明るくなる頃に目を覚まし、4月というのに温度計は氷点下を指す。そして、巨大すぎる記念スタンプはA4ノートにピッタリはまった(図17)。

翌朝、雪は止んだので、早朝に出発。道路は見事に除雪されていた(図18)。

田沢湖は、最大水深が423.4mと日本一深い湖である。御座石神社にお参りしてから、北へと向かう(図19)。